

かみぎゅうくんをプロデュース - ゆるキャラ活用で地域活性化 -

春・秋連結学期 | 今出川校地開講科目

1. 目的・概要

the purpose and an outline

本プロジェクトでは、平成21年に130周年を記念して誕生した京都市上京区のマスコットキャラクターである「かみぎゅうくん」の認知度を高めることや「かみぎゅうくん」を活用した地域活性化や地域住民と学生との交流促進を図ることを目的としています。

春学期の授業内容としては、かみぎゅうくんの認知度向上という目標を設定し、5月にメンバー全員で初めて地域のイベントに参加しました。その後、京都市内各所で知名度調査を実施したり、かみぎゅうくんや各キャラクターを取り巻く環境についてメンバーで学んだりしました。その際、名前を覚えてもらうきっかけとして、数多くの広報用グッズを作成し、実際に稼働した際、多くの方々に配布しました。また、地域の方々に協力をいただき、7月のお祭りではステージを設け、かみぎゅうくんを通じて、本格的に地域の方々と関わり始めました。

秋学期の活動内容としては、上京区の地域活性化に重点を置き、活動しました。地域の方々に少しでもかみぎゅうくんを活用してもらうきっかけになることを目標とし、歌や踊り、ミュージックビデオなど形に残るものを作成しました。また、プロジェクト科目外の方々から協力をいただき、かみぎゅうくんの製品やメニューを実際に制作・販売しました。数多くのイベントに参加し、かみぎゅうくんを用いた活用法を多く提示することで、少しでも多くの区民の方々をつなぐという役割を担えるように活動を行いました。



annual schedule

- | | | |
|-------|-----|--|
| 2014年 | 5月 | 「能舞台フェスタ」に参加。京都市各所で知名度調査を実施。 |
| | 6月 | 名刺やピラなど広報に使用するグッズを制作。また、同志社大学構内にて稼働開始。 |
| | 7月 | 出町榊形商店街「七夕祭り」に参加。「ゆるキャラグランプリ2014」にエントリー。 |
| | 8月 | 「京の七夕」に参加。 |
| | 9月 | 同志社大学学生食堂にて、「ゆるキャラグランプリ応援ラーメン」を販売。 |
| | 10月 | 「上京ふれあいまつり」に参加。「まんまん堂」様に協力をいただき、「かみぎゅうくんクッキー」の販売を開始。 |
| | 11月 | ゆるキャラグランプリの投票が締め切られ、339位と、前年度より大幅に順位を更新。
「都ライト」に参加。「上京のこども祭り」に参加。 |
| | 12月 | 「かみぎゅうくんのうた」完成。小川特別養護老人ホームとミツバ幼稚園が併設された施設を訪問。京和幼稚園の終園式に参加。上京陵和園でのクリスマス会に参加。室町児童館にてイベントを開催。 |
| 2015年 | 1月 | 「かみぎゅうくんのうた」のミュージックビデオを完成。 |

2. 成果達成度

the achievement degree

【春学期】

まず、かみぎゅうくんについて深く知ることやブレインストーミングを行うことからスタートしました。そして、5月3日に今宮神社の御旅所で行われた「能舞台フェスタ」に参加しました。このイベントでは、与えられたステージの持ち時間を使って、いくつかのクイズを行ったり、他大学のダンスサークルとコラボレーションを行ったりしました。また、ステージ以外の時間においても写真撮影など積極的に取り組むことができました。しかし、イベントの関係者や来場者にも「何かキャラクターがいる」ことはわかってもらえたとしても、名前まで覚えて貰えなかったことが反省として挙げられました。その反省を生かし、ピラや名刺といった広報用グッズを制作しました。さらに、次回以降の活動では参加メンバーが統一したTシャツを着用することとしました。そして、知名度を深く測定するためにアンケート調査を実施し、その結果、上京区内ですら知名度が低いことが判明したため、実際に同志社大学の構内にて複数回稼働させました。最初はほとんど知られていなかったのですが、何度も稼働したり、グッズをたくさん配布した成果もあり、「かみぎゅうくん！」と名前でも呼んでもらうことが増えました。また、7月には出町榎形商店街の「七夕祭り」に参加しました。かみぎゅうくんが七夕祭りで催し物をするに対する理解を得ることは容易ではなく、理事会へ何度も足を運びました。その結果、催し物を行うスペースと時間をいただくことができました。そこでも多くのグッズを配布できました。催し物以外の時間では、商店街のヨーヨー釣りの出店のお手伝いを行い、地域の方々と交流しました。そのような活動などを通じて、当初の目的であった認知度向上だけでなく、学生が地域の方々と関わりを持ったという体験も成果として生まれました。

【秋学期】

秋学期の活動内容としては、「上京区の地域活性化」に重点を置いて活動しました。メンバー同士で「かみぎゅうくんを用いて行う地域活性化とは何か」ということを何度も議論した結果、上京区民と区民の方々、区民と学生または外部の方々などといったように、「かみぎゅうくんを通じて人同士をつなげること」だと考え、私たちがそのきっかけを作れるよう多くの企画を考えることにしました。その際、春学期に比べてより細かな班員編成を行い、各々が主体となり様々なイベントに参加したり、多くの施設を訪問しました。また、貸出チラシを作成したことや、「かみぎゅうくんのうた」やダンスを考え、ミュージックビデオも完成させるなど、形として今後も残るものを作成しました。そして、同志社大学の学生食堂や福祉施設「まんまん堂」様など、プロジェクト科目関係者以外の方に協力を頂き、かみぎゅうくんをモチーフにした製品やメニューを誕生させることができました。このような取り組みを通じて、かみぎゅうくんを用いた活用法を多く提示してきました。そして、「つなげる」という目標に関しては12月に小川特別養護老人ホームにてステージを披露した際、子供たちと高齢の方々が共に楽しんでいた姿を見ることができ、異なる世代の人々を一つにできたという強い実感を得ることができました。また、「ゆるキャラグランプリ」にも積極的に投票を促し、実に6000票以上もの票数をいただき、結果としては339位にランクインし、前年よりも大幅に順位を伸ばし、知名度に関してもさらに向上させることができました。



3. プロジェクトを通じて

through a project

一年間を通じて、「事前の準備」や「事後のケア」の重要性を強く実感しました。本プロジェクトは数多くの企画について議論することが多かったのですが、考案者がたたき台のようなものを作成し、事前に共有しておくだけでも、そのスピードがぐんと上がり、円滑な話し合いができたということが何度もありました。一方で、そのようなことが出来ていないまま話し合いを行うと、停滞してしまうということが多々ありました。また、企画を行う際にも、前もって入念に打ち合わせや下見などをしておく、やはりうまくいくことが多かったように感じます。秋学期は目標をメンバーで決定する際、多くの時間を議論に費やしましたが、そのようなたたき台を作ることなど、意見を考える時間を授業前に設け、重複して話し合う時間をもっと減らせば、別のことに着目できて、まだまだ実行できたことはあったのではないかと課題として残っています。また、企画を実行する段階だけではなく、先方と話しあうところからも、何を言われたかというような記録などを残すということを大事にすると、全員にも問題点を共有でき、物事の焦点がはっきりして、より進んだ話し合いができたのではないかと今になって思います。

このように反省もありますが、各メンバーが率先的に仕事をするという意識を高くもっていたからこそ、多くの人々と関わり、協力を得て、年間スケジュールに書いたように多くの経験ができました。

これは、一年間活動を共にしてきて得た財産だと思います。また、かみぎゅうくんのようなマスコットキャラクターは、地域の皆さんの協力や応援がなければ存続し得ないものだという点をイベントや企画などを行う中で随所と感じました。夢中で過ぎていった一年間でしたが、本当に貴重な経験を沢山できてよかったとメンバー一同感じています。



【編集後記】

報告書を作成するにあたって振り返ると、この一年間は本当に早かったです。また、「かみぎゅうくん」を介して、たくさんの方と知り合い、協力をいただくことができ、良い体験が沢山できました。1年間このメンバーで活動できたことを誇りに思います。最後に、たくさん支えていただいた教務のみなさんや、TAの方、担当者のみなさん、ほかにも関わっていただいた皆さん、本当にありがとうございました。

【プロジェクトメンバー】

竹田 彩貴(社会2) 柴坂 未帆乃(法3) 村木 翔哉(法3) 木村 光佑(法4) 山田 紗生(法4) 吉崎 さゆり(経済3) 榎本 裕子(経済4)
本多 来実(商2) 金織 すみれ(商3) 稲垣 康平(商4) 横田 晃一(政策4) 米田 菜穂子(文化情報4) 坂口 紗姫(TA)